

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870500246		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム センチュリーの里 ユニット名(らん)		
所在地	茨城県石岡市三村6284-7		
自己評価作成日	令和2年12月14日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・特養隣接の良さを活かした施設運営 ・教育研修や医療連携の充実 ・地元住民の一員として地域活動に参加、交流(コロナウイルスの影響により現在は控えている) ・委員会活動、8委員会によるサービスの質の向上 ・ボランティア、実習生の受け入れ ・感染症対策(手洗い、うがい、消毒、換気、マスクの着用、行動履歴記録、面会規制、委員会など)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870500246-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は林や畑が多い自然豊かな環境の中の広大な敷地に立地し、同敷地内には同一法人運営の特別養護老人ホームや通所介護事業所などが隣接していることで、利用者は通所介護事業所に通う友人に会いに行くなど日々地域住民と交流しながら楽しく長閑に暮らせる環境となっている。行事やボランティアによる催し、避難訓練、災害時など、特別養護老人ホームと合同で行うことで強力な協力体制を構築しているほか、特別養護老人ホームの看護師に利用者の健康状態をいつでも相談できる体制など利用者や家族等、職員の安心にも繋がっている。現在コロナ禍の中で室内で過ごすことが多いことから、運動不足解消に事業所内の敷地での散歩を毎日行うほか、職員が率先してレクリエーションを考案するなど、利用者が元気に楽しく過ごせるよう努めている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年2月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と目標を施設内に掲示し実践を心掛けている。	法人の理念とその理念の根幹に沿う事業所独自の目標を作成している。毎日の朝礼時に、利用者一人ひとりがその目標に沿った状況になっているか、確認しながら、支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加できる地域の行事には積極的に参加し、また、地域老人会の方を招待し交流を図っていましたが本年度はコロナウイルスの影響により交流を控えています。	地域の方々に理解を深める機会として、広報誌を年3回発行している。小学校の福祉体験学習や実習生の受け入れをしたり、事業所主催の行事に近隣住民を招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に3回広報誌を発行し地域の人々に認知症に対する理解を深めて頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、参加者へ利用者の状況を報告しています。職員は参加者からの意見を賜り、サービスの向上に努めています。	事業所での活動やヒヤリハット報告が主になっており、夜間帯にヒヤリハット事例が多いため、委員から得た意見で対応策を実行している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型連絡協議会、定例会参加等で市町村担当者との協力関係を築いている。	地域密着型連絡協議会に加盟し、毎月の定例会に参加しているとともに年4回の研修、運営推進会議時などで市担当者と協力関係を築いている。生活保護担当の職員が年1回来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月1度開催している。また、全職員を対象にビデオ研修を定期的に行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回、隣接する同一法人運営の特別養護老人ホームと合同で「身体拘束適正委員会」を開催し、職員が参加している。身体拘束について年5回外部研修や内部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常より話し合い、職員同士で意識の統一を図っている。また研修や委員会で学んだ事を職員で共有し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解については、研修等で学ぶ機会を増やしていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、分かりやすく説明するよう心掛けている。また、制度改正がある場合は事前説明の案内を行い、疑問点があれば質問を受け理解して頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置し要望を聞いています。要望があれば迅速に対応し運営の反映に努めている。利用者から意見や要望がある際はスタッフ全員で共有し可能な限り要望に応えられるよう検討して実行している。	重要事項説明書に苦情・相談受付期間を明記している。面会時には必ず声かけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見、提案を出し連絡ノートを活用し情報を共有している。また、月に1度職員会議を行い、管理者との意見交換も行っている。	管理者は職員一人ひとりの状態を確認しながら、何か気づくと昼休みなどにそっと話しかけるように配慮している。職員からレクリエーションの内容や買い物等の意見があった場合は取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規定により職場環境や条件の整備に努めています。職員には、公平かつ平等に研修参加や資格取得の機会が提供されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催では、新規採用時研修、上級救命講習会、グループホーム勉強会が随時開催されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会、法人傘下の同業種との交流や学習の機会があり、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で本人の生活歴を知り、利用者様の意見や不安な思いを傾聴する。要望等に耳を傾け安心して生活が送れるよう支援します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設を見学していただき、不明な点や要望を伺っている。また、入所契約前、契約時にも家族と話し合う時間を設け、要望、希望を聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に担当ケアマネジャーより本人の情報を得ている。包括支援センターや居宅ケアマネジャーと連携し必要としている援助を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や援助をするだけでなく、本人の能力に応じて出来る範囲で簡単な家事などに参加して頂くよう努め、生活を共にする家族という認識を持ち、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のADL、IADLの変化を察知し電話連絡等必要に応じて日頃より家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めているが、コロナウイルスの影響により現在は難しい。電話連絡等、できる範囲での支援を行っている。	基本情報で利用者の友人関係などを把握している。新たに知り得た情報は、「連絡ノート」に記載しながら、職員間で共有している。併設の通所介護事業所に来た顔なじみの人に会いに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が和やかに話ができるように、職員が間に入り手助けをしています。レクリエーション、散歩(現在は棟内のみ)体操を行い楽しく過ごせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人の様子を見に施設や病院へ面会に行く等、本人や家族との関係が切れる事のないよう努めている。家族から相談を求めてくることもありその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話、また意思疎通が困難な場合、表情や仕草から思いを汲み取り希望や意向の把握に努めている。	センター方式の私の姿と気持ちのシートを活用し、利用者の思いを作成している。利用者一人ひとりの思いや意向、更に家族等の希望に沿った支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に担当ケアマネジャーより本人の情報を得ている。入居時には本人や家族から聞き取りを行い記録し、これまでの暮らしの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に聞き取った情報や日々の暮らしの中で本人ができる事、有する力等の現状把握に努めケアプランにも取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や意見を聞き取りプランに反映させている。 また、担当者会議を行いその人らしい介護計画の作成に努めている。	サービス担当者会議には、医師や看護師は参加していないが、作成にあたり意見などを聞いている。利用者本人の希望や楽しみな事、趣味などを把握し、できることをレクリエーションに取り入れるように心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや毎日の様子を記録し職員間で情報共有し次の介護計画の見直しに活かしている。 また、連絡ノートを使用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族が対応できない時等状況に応じて対応している。本人、家族が様々な要望や意見が言える雰囲気作りを考え、柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の運動会や保育園の慰問等に参加 また、運営推進会議のメンバーとして民生委員との意見交換等、積極的に参加しているが、現在はコロナウイルスの影響により支援を控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関やかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。 受診後は個族に状況を報告、記録に残し職員間で情報共有している。	契約時に家族等にかかりつけ医への受診が可能なことを話している。毎日、利用者の健康状態を観察し、変化が見られる時は、併設の特別養護老人ホームの看護師に相談している。協力医療機関に受診する際は、通院となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を観察し、状態変化に応じた支援を行っている。 変化ある時は併設の特養看護師に随時相談し協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に相互の情報交換を行っている。 また、面会時や電話連絡で情報交換を行い早期退院に向けて相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたマニュアルを作成しており、契約時の段階から施設の方針や出来る事を本人、家族に説明している。	「看取りに関する指針」と「同意書」、「終末期ケア承諾書」があり、家族等に説明し同意を得ている。看取りを行う事業所であるが、職員に対し研修を行うまでには至っていない。	重度化や終末期、看取りの研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で全ての職員が定期的に上級救命講習を受講し実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い意識を高めているが、現在はコロナウイルスの影響により実施されていない。 地域の協力体制については運営推進会議で呼び掛け協力を求めている。	夜間想定を含む避難訓練を併設の特別養護老人ホームと合同で行っている。訓練後、反省点と良かった点は記録されているが、話し合っただけで今後の課題を記載し、どのように課題を改善するかが記録に残すまでには至っていない。	訓練後の話し合いから、今後の課題や改善策を記載することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、敬意ある対応に配慮している。 個人情報の管理も徹底している。	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮して傷つけないような言葉かけをしている。個人情報に関する同意書、肖像権に関する同意書がある。人権尊重や守秘義務について法人での研修に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、自ら決定や選択をすることが出来る場面づくりに努めている。 自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重し、思いのまま過ごして頂けるよう配慮している。活動を行う際は、参加されるかどうかを確認し、生活のペースを乱したり押し付けにならないよう、出来る限り個別性重視の支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や好みに応じたおしゃべりができるように支援しています。 起床時には整容、整髪し身だしなみの支援を行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後下膳をして頂いたり、テーブル拭きや食器拭き等、軽いお手伝いをして頂いています。ホワイトボードに毎日のメニューを書き、料理を想像する楽しさを取り入れたり、毎月一度お楽しみ献立を実施し食事を楽しめるよう支援しています。	利用者から見える場所に献立を掲示し、食事が楽しみなものになるように配慮している。おせちや行事食のほか、月1回、利用者の希望を取り入れたお楽しみメニューがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりメニューを作成している為、バランスの取れた食事を提供している。食事や水分量の状況を記録し、職員が情報共有している。不足時は無理のない程度に摂取して頂くよう声掛け支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔内の清潔保持に努めている。夕食後は義歯を預かり、洗浄も行っている。また、必要に応じて歯科往診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に、排泄チェック表を用いて利用者の排泄間隔を把握している。認知症の進行に伴い、排泄そのものや、トイレの場所が分からなくなっている利用者については、声掛けによるトイレ誘導や見守り支援を行っている。	利用者一人ひとりの個別な排泄パターンを把握しながら、声掛け誘導や利用者からのナースコールを受けてのトイレ誘導などで、リハビリパンツから布パンツに改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動で便秘予防に取り組んでいます。排泄チェックシートに記録し、一人ひとりの状況を把握。医師と相談しながら下剤の調整、服用を支援し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は職員より会話をしながら楽しく入浴できるよう支援しています。二日に一度入浴されているが常に入れては状態ではなく、時間帯も選べないため完全に希望には添えていない。	利用者の希望でいつでも入浴可能である。ゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じながらの入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者に対しては、職員や時間を変更するなどして入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調不良を考慮し居室で休む時間も大切にしている。就寝時は、一人ひとりの生活習慣を把握し安眠ができるよう空調や照明に配慮し、パジャマに着替える等安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでもすぐに確認できるよう個人ファイルに薬状書を添付している。薬の準備や服薬チェックは二重にチェックし確実にしている。薬変更時は連絡ノートで情報共有し様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意欲や希望、現在の力量に合わせて洗濯物たたみやテーブル拭き、食器拭き等、役割を持ち楽しく生活できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を考慮しながらドライブ、散歩、買い物等の機会を支援しているが、現在はコロナウイルスの影響により控えています。	雨や雪の日以外は、事業所の敷地内で散歩をして、足腰を鍛えながら健康維持に努めている。コロナ禍で、外出する機会が少なくなったので、気分転換にドライブを兼ねて車窓から近隣の公園や馴染みの場所などを見ながら季節感を味わうように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の許可を得て、本人の力量に応じて可能な方のみ本人管理している。 それ以外の利用者は事務管理し、本人の希望により買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話や手紙はいつでもできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアの室温や湿度をチェックし配慮しています。また、カーテンの調整で自然光の取入れを行っている。季節が分かる花を生け飾る等工夫しています。	玄関に置いてある公衆電話で気軽に利用者が電話できるほか、友人からも公衆電話にかかってくる環境となっている。季節感が分かるように季節の花を活けたり飾る工夫をしている。壁に飾られた行事時の利用者の写真で思い出の振り返りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは皆様と一緒に過ごせ、一人になりたい方は居室に、また、談話コーナーを設けて、気の合った方で過ごせるスペースを作る等、居場所づくりの工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた布団や家具、思い出の道具等を持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。利用者はそれぞれ使い慣れた品物を持ち込んで、好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は床をフラットにし、手すりを設置して歩行に支障がないよう工夫している。 また、場所が分かるように表札や表示を掲示している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

グループホーム センチュリーの里

作成日 令和 3年 4月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	「看取りに関する指針」と「同意書」、「終末期ケア承諾書」があり、家族等に説明し同意を得ているが、全職員に対して研修が行うまでに至っていない。	全職員に対して、重度化や終末期、看取りの研修を行う。	ビデオ研修等を含め研修を行う。	3ヶ月
2	13	避難訓練後、今後の課題を記載し、どのような課題を改善するかが記録に残すまでには至っていない。	訓練後の話し合いの内容を記録に残す。	訓練後話し合いをし、今後の課題や改善策を記載する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。